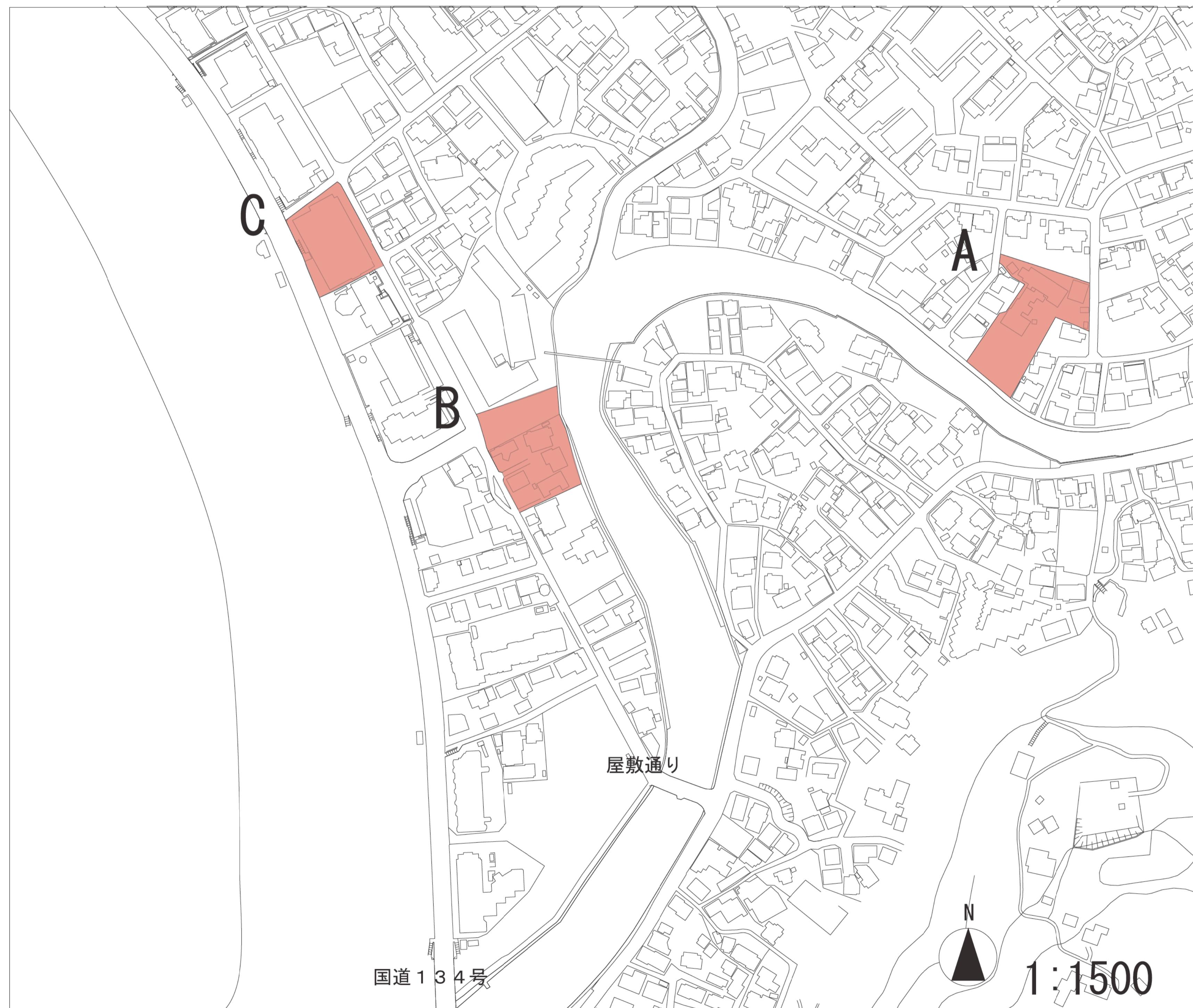


地域に相応しい集住性の提案

3つのグループに分かれ、それぞれ敷地とテーマを決め、その場所の環境を読み解きながら、より良き集住性について提案する。



各班の提案の概要

A



屋敷跡コーポラティブハウス

別荘や保養地など、古くからの大規模な敷地が多く残っており、逗子市の中でも住環境が良く、歴史的財産が多い地域であるが、近年敷地の細分化に起因する開発で、歴史的景観も少しづつ失われつつある。

私たちが提案するのは、その敷地規模や豊かな住環境を生かした戸建てコーポラティブハウスである。敷地の細分化を防ぎ逗子らしさを未来へ残すとともに、逗子に住む楽しさを再発見したい。

B



屋敷通りの集住

美しい逗子の海と、市民に親しまれる田越川をつなぐオープンスペースを軸にした集合住宅を提案する。屋敷の特徴を継承し筒自然に囲まれた逗子の暮らしのひとつのモデルを示し、逗子らしい住まい方が周辺へ広がっていくことを見据える。

C



裏通りからメイン通りへ

敷地は国道134号線と屋敷通りにはさまれた場所に位置し、国道に向かって建てられている建物は、屋敷通りに背を向けているため、裏道となっている。

このことが通過交通の流入や歩行者にとって過ごしにくいといった問題を引き起こしている。

そこで、裏道かした屋敷通りを集住環境の計画を通して、地元住民の方や歩行者の方にとって過ごしやすいメインの通りとなるような提案をする。